

「大学コンソーシアムひょうご神戸 ひょうご高校大学コンソーシアム 2022」報告書  
一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

日時：2022年12月12日（月）13:30～16:30

会場：Zoomによるオンラインフォーラム

概要：県内大学と高校の高大連携をめぐる具体的な課題を共有し、県内大学と高校における教育の連携を通じた人材育成取り組み促進のため、「ひょうご高校大学コンソーシアム」を開催。2022年度より高等学校学習指導要領において導入された「総合的な探究の時間」について、課題解決に向けての意見交換をした。2016年から実施している本取り組みを継続することで大学と高校教職員の相互理解と人的ネットワークの構築を行った。

対象：兵庫県内の高校教職員・大学教職員等

参加者数：計64名（加盟校:20校42名、高校:14校17名、企業・団体:2社5名）

## 内容

テーマ『探究』を教育活動で展開するにはどうしたらよいか

<開会挨拶>

高大連携委員会委員長 関西国際大学 副学長 山下 泰生 氏

<第1部>基調講演「探究学習」の課題に関して、実践的な観点での調査も踏まえた今日的な話題をご提供いただく。

甲南大学 理工学部地学研究室 教授 林 慶一 先生

<第2部>意見交換会

高校・大学の事例紹介や意見交換会を実施。事前アンケートにより、

「総合的な探究の時間」、「探究学習」に関する課題を募集し、

高校・大学の連携による課題解決に向けた意見交換・交流を図った。

### ◇大学 話題提供

神戸大学 高大接続卓越グローバル人材育成センター 教授

伊藤 真之 氏

関西国際大学 高大連携センター長 前田 哲男 氏

### ◇高等学校 話題提供

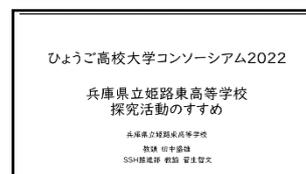
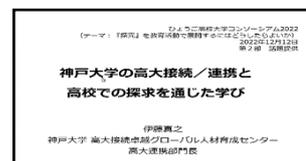
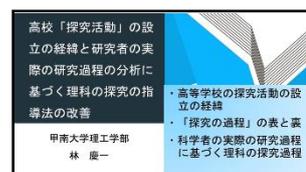
福崎高等学校 校長 齋藤 勝 氏

姫路東高等学校 教諭 菅生 智文 氏

[ファシリテート]

甲南大学 高大接続推進企画運営委員長 茶山 健二 氏

### 話題提供者・演題



## 参加者アンケート(感想抜粋)

### Q1. 全体の内容について

#### ●大学

- ・探究活動を行う辛さなど高校の現場の声が聞いてよかった。中等教育での探究活動はプロセスを評価すべきだという考えについて分かりやすい意見が聞いて良かった。
- ・探究の授業の進め方や考え方について、色々お話を聞いてよかった。高校側と大学側とのお話が聞いてよかったと思う。

#### ●高校

- ・「探究とはさまよう過程である」という認識が得られた。また、大学から高校へのアプローチや高校から大学へのアプローチという意味で、よりスムーズな連携が図られそうな期待が持てた。
- ・基調講演が大変参考になった。多くの大学の先生方の高校での探究に対するお考えを聴くことができた。

### Q2. 基調講演「甲南大学・林慶一先生の講演」について

#### ●大学

- ・探究活動を行う辛さなど高校の現場の声が聞いてよかった。中等教育での探究活動はプロセスを評価すべきだという考えについて分かりやすい意見が聞け良かった。

#### ●高校

- ・「論文を書くとは研究課程の混乱と興奮に秩序を与える」という内容がしっくりときました。先日、内容を1から10までポスター発表した生徒に、「聞き手が理解しやすいように、省いたり順序を変えたりしてお話を作り直さない」とアドバイスしたが、それが短い言葉で言い表されていて、腑に落ちた。

### Q3. 話題提供「神戸大学」(伊藤真之先生)はいかがでしたか。

#### ●大学

- ・神戸大学の ROOT の取り組み、特に社会貢献の部分と大学入試の部分との関連がよくわかった。
- ・大学・高校の両方の現状を把握された上での発言で、言葉に重みを感じた。

#### ●高校

- ・地域におけるコーディネイト機能については、先輩の先生がまさにこういうものが欲しいと(しかし無いので自分で作ろうかとも)おっしゃられており、大学側も同様の意見をお持ちであるということが分かった。

Q4. 話題提供「関西国際大学」(前田哲男先生)はいかがでしたか。

●大学

・高校の教員を経験された視点も交えたご意見がとても参考になった。

●高校

・高大連携センターの役割や今後ますます発展しそうな連携の在り方が見えた。また、出張授業などがスキル別でリスト化されていることが素晴らしいと感じた。

・本校も探究のデータベース等を作成したいと考えている。まだまだ、貴校のようなものはできないが、今後も積極的作成に向けて取り組んでいきたい。

Q5. 話題提供「福崎高等学校」(齋藤勝先生)はいかがでしたか。

●大学

一般的な高校の現状を正直にお話ししていただいた点、参考になった。

●高校

・齋藤先生のお話がほとんどの高校の実際のところだと思う。先進校の成果発表だけを鵜呑みにしてもらおうと困る。実際は「探究なんて面倒くさい」「時間がない」と思っているところからのスタートで、調べ学習して期間が終わる生徒がほとんどではないだろうか。1割から2割の生徒が探究の形に何とかなるというくらいだと感じている。

Q6. 話題提供「姫路東高等学校」(菅生智文先生)はいかがでしたか。

●大学

・高等学校での実績をご教示いただけた。とりわけ、「探究」をめぐる3年間の取組みの流れを理解することができた。

・SSHの指定を受け、JSTからの様々な要望を満たしつつ、現場の教員の研修、生徒の成長を支援していくことに本当にご苦労されていることが感じられた。

●高校

・教員の研修会がたびたび行われている点がすごい。また、科学的な研究だけでなく、それに関連する科学倫理のテーマを考えてディベートを行うのは面白いと思った。

Q7. 「高校×大学 意見交換会」はいかがでしたか。

●大学

・齋藤先生から報告がありました「生徒や保護者からの反応について、探究活動が大学受験に関係のない余計な事のように思われている節があり、探究の理解が進まない現状」に対して、大学の入試のところで探究活動をもっと評価するような形を作って増やしていかなければと思った。

●高校

・高校、大学双方の課題等を提示したうえで前向きに解決に向けた意見交換ができた。

Q8. 当コンソーシアムが実施する「高大連携・高大接続」がテーマのイベントに期待すること、希望する内容があればおきかせください。

●大学

・「探究活動」を行う上で最も障壁となるのが、取り組み姿勢の不一致だと思われる。コンソーシアムなどを通じて、同じ方向を向いている人たちが取り組みを宣伝していく必要があるのではと思う。そのための広報的役割が必要なのだと思う。

・高校生や大学生が中心に位置づけられる「兵庫モデル」が構築できるような取り組みになることを期待している。

●高校

・高大接続と総合選抜型入試を期待する。総合選抜型入試が増えても、共通テストがあるかぎり、全体の教育課程はそれに対応できるよう編成される。「情報」も課されることになり、その対応も真剣に検討している。「総合選抜入試」に合格できればよし、だめなら共通テスト対応で受験となるので、学習する科目に余裕を持たせることができない。そのような中での探究で、生徒はかなり忙しいのが現状である。

Q9. その他、ご質問などあれば、自由にお書き添えください。

●大学

・関東に比べて関西は全般に（高校の）探究学習が盛んでないと言われており、それは大学入試に活用されていないからであると（受験産業等から）よく聞きく。それについて高大の先生方のお考えをお聞きしたい。

・今回初めてこちらのコンソーシアムに参加した。私自身が元々中学高校の現場におり、SGHの申請と立ち上げに関わるなどの経験もしており、2年前より大学にて教鞭をとっておりますこともあり、高大接続には大変関心がある。今日の皆様のお話や質疑応答を大変興味深く拝聴した。

・教育委員会が高大連携の研修会を実施したりすると良いと思ったが、それは難しいのか？現場の高校の先生からは必ずしも探究活動がうまくいっているばかりではなく、仕方なく行なっている学校もあることを聞いた。その反面、兵庫県ではSSHや探究科のような学科も増えつつあることも聞いたが、この理由は何が考えられるのか？

●高校

・今回たくさん会話に参加させていただいたので私はよかったが、他の参加者も話したことがあったのではないかと考えられる。Zoomで行うのであれば、ブレイクアウトルーム等で細かく分けてもよいと思う。大変有意義な時間となった。

以上



(登壇者発表のご様子)

上段(左から)：山下泰生氏(関西国際大学)/林慶一氏 (甲南大学) /伊藤真之氏 (神戸大学) /  
前田哲男氏 (関西国際大学)

下段(左から)：齋藤勝氏 (福崎高校) /菅生智文氏 (姫路東高校) /茶山健二氏 (甲南大学)